



Daiwa Lease®
大和ハウスグループ

大和リース株式会社 様

http://www.i3-systems.com/case_daiwalease.html

大阪に本社オフィスを構える大和リース株式会社（以下、大和リース）は、大和ハウスグループの一員として、主に仮設建物のリースや販売、商業施設の開発などを手掛ける企業です。約2100人の従業員と、全国約70箇所の拠点をもち、建築リースの分野では国内トップクラスのシェアを誇ります。

現在同社では、500台のiPadを社内導入しており、営業部門を中心に日々のモバイルワークに活用しています。またこれらiPad端末上には、アイキューブドシステムズのブラウザアプリ「CLOMO SecuredBrowser」が導入されています。同社がiPadを導入した経緯や、CLOMO SecuredBrowserを採用した理由などについて、同社情報システム部の小松さま、山中さま、前田さまにお話をうかがいました。

（取材：2013年3月）

導入サービス

CLOMO SecuredBrowser

情報漏えい防止と利便性の高いブラウジングをCLOMOで実現

課題

- 標準ブラウザのキャッシュ保持機能が原因で、社内WEBシステム内の情報を、誤って第3者に見られてしまうのを防ぎたい。

解決方法

- ドメイン指定が可能な「キャッシュ保持制限機能」で、情報漏洩を回避。予め見せたいページを開いておける通常ブラウジングのメリットも残った。



震災復興支援での体験からiPadの有用性を実感、社内導入へ乗り出す。

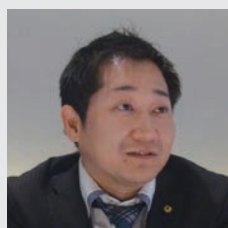
— iPadを導入された背景といきさつについてお聞かせください。

小松さま：弊社がiPadを初めて導入したのは、まだiPadが日本国内に初お目見えして間もないころの、2011年までさかのぼります。当時から、弊社のトップもわれわれ情報システム部も、タブレット端末は営業・販促ツールとして極めて有用だという認識を持っていました。電子カタログを使えば、重い紙のカタログを持ち運ばずに済みますし、写真や3D画像をふんだんに使ったプレゼンで商機も増やせるのではないかと考えたのです。そこで、当時あった複数のタブレット端末を評価して

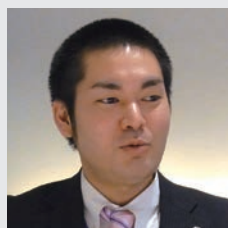
みたのですが、操作性やディスプレイ画質の面でiPadはずば抜けていました。そんな折、2011年3月11日に東日本大震災が発生して、弊社はプレハブ建築業界の企業として、被災地の仮設住宅建設に取り組むことになりました。その際、仮設住宅の建設候補地を地図上にマッピングできるアプリを導入したiPadを急遽11台用意して、主だった担当者に配布しました。このように、社内にiPadを導入する以前から、実は震災対応のために導入した経緯があったのです。

企業情報

- ・昭和22年7月29日 設立
(創業/昭和34年6月22日)
- ・資本金:217億6838万2519円
(平成25年3月1日時点)
- ・規格建築事業、流通建築リース事業、
リーシング ソリューション事業、
環境緑化事業
- ・従業員 2,058名(平成25年3月1日時点)
- ・<http://www.daiwalease.co.jp>



情報システム部
山中 様



情報システム部
前田 様

ーでは震災への対応が、最終的にiPadを採用する決め手となったのでしょうか。

山中さま：実はもう1つ、iPad 導入を決定付ける出来事がありました。弊社の親会社である大和ハウスが、2011年6月に2000台のiPadを社内導入すると発表したのです。そこで、大和ハウスと同じデバイスを採用すれば、セキュリティ対策や電子カタログツールなどを効率よく共有できるのではないかと考えました。現にネットワーク環境は大和ハウスとほぼ共通していましたので、同じiPadであればユーザー認証やMDM (モバイルデバイス管理) といったセキュリティ周りの仕組みを重複して構築せずに共有できるのではないかと考えたのです。そこで2011年8月に、まずは営業部門向けに180台のiPadを先行導入することを決めました。

iPad 活用の方向性は見えていたが、Safari のセキュリティ懸念でストップ

ー 先行導入したiPadには、具体的にどのようなアプリを導入したのでしょうか。

小松さま：われわれ情報システム部の手ですべての端末に導入した主なアプリは、MDM のクライアントツール、販促ツールとしての電子カタログアプリ、それに社内のイントラネット「DLnet」にアクセスするためのWebアプリケーションの3つでした。これらに加えて、各ユーザー、各部門で業務に必要だと判断したアプリは、各自が自己責任で導入するというポリシーをとりました。

山中さま：ちなみに「DLnet」は、弊社のさまざまな業務システムにアクセスできる Web ポータル として、社内でも広く利用されています。社内に設置されたPCからは、各部門に用意されたポータルを通して、さまざまなシステムにアクセスできるようになっていますが、今回新たに導入したiPad上からは、社内メールやスケジュール管理、勤怠管理など、各部門で共通して使われる一部の機能のみに絞ってアクセス可能な仕様としました。

ーでは、先行導入したiPadの環境設定やキッティングは、おおむね順調に進んだわけですね。

前田さま：実は1点、重大な問題が持ち上がりました。当初の計画では、iPad上から電子稟議システムにもアクセスできるようにする予定でしたが、事前評価の結果、情報漏えいのリスクが指摘されたのです。

ー 具体的には、どのような問題が発生したのでしょうか。

前田さま：iPadに搭載されるブラウザ「Safari」は、電源を落としてもWebページのキャッシュがブラウザ内に残ります。この特長を活かせば、営業担当者は顧客を訪問する前に、あらかじめ顧客に見せたいページを開いて準備しておくことができます。これはとても便利なのですが、その半面、万が一、電子稟議システムのページが開いたまま残っていたら、誤ってこれを顧客に見せてしまう危険性も出てきます。こうした事態は、何としても未然に防ぐ必要がありました。

小松さま：そのため、先行導入した180台のiPadでは、電子稟議システムへのアクセス機能を見送らざるを得ませんでした。しかし、外出先からiPadを使って電子稟議システムを利用できれば、意思決定のスピードアップに大きく寄与することは明白でした。

実は、2012年3月に全国50拠点から、導入した180台のiPadをどう活用しているかの活用例発表会を本社で役員も同席で行いました。3D画像で図面を見せることにより、お客様に理解しやすいプレゼンテーションを行うなど独自の工夫で活用している発表が社内で高く評価され、その場で320台の追加導入が決まりました。追加導入時には、ぜひこの電子稟議の活用におけるリスク対策を実現したいと考えていました。そこで白羽の矢を立てたのが、アイキューブドシステムズのブラウザアプリ「CLOMO SecuredBrowser」だったのです。

CLOMO SecuredBrowser 採用の
決め手は、「アイキューブドシステム
ズの柔軟な対応」

ー iPadから社内の電子稟議システムに
アクセスする上で、なぜCLOMO
SecuredBrowserが有用だと思われ
たのでしょうか。

前田さま：CLOMO SecuredBrowser
には、もともと開いていたWebページの
URLキャッシュを消去できる「キャッシュ
保持制限機能」が備わっています。これ
を活用すれば、たとえ電子稟議のページ
を開いていたとしても、一度ブラウザを閉
じるか端末の電源を落とせば、再び誤っ
てそのページが表示される危険性を排除
できると考えました。

ー ちなみに、同種の機能を備えるブラウザ
アプリはCLOMO SecuredBrowser
以外にも幾つかありますが、その中
であえてCLOMO SecuredBrowser
を選ばれた理由はどこにあったので
しょうか。

山中さま：最大の理由は、アイキューブド
システムズにわれわれの要望を真摯に聞
いてもらい、とても柔軟に対応いただいた
ことでした。ブラウザのキャッシュを消去
できれば、確かに電子稟議の画面を誤っ
て見せることによる情報漏えいや信用失墜
のリスクは回避できます。でもその半面、
「あらかじめ見せたいページを開いて準備
しておける」というSafariならではのメリ
ットもなくなってしまいます。そこで、
「DLnet」のドメインだけをキャッシュ消
去の対象にできないか、アイキューブドシ
ステムズに相談したところ、これを「ドメ
イン指定」という標準機能として実装して
いただけました。ユーザーの要望を、こ
のように柔軟に標準機能として取り込んで
いただけたのは、非常にありがたかった

ですね。

前田さま：また、CLOMO SecuredBrowser
の評価を始めた当初は、既に弊社でSafari
向けに開発していたWebアプリケーション
の機能の一部が、CLOMO SecuredBrowser
上では正常に動作しませんでした。そこで、
Safariと同じ動作をするようアイキューブ
ドシステムズに改善要望を出したのです
が、この点についても極力対応していた
だったので、本当に助かりました。

ー では、iPad上からの電子稟議システ
ムへのセキュアなアクセスは、無事
実現したわけですね。

小松さま：はい。2012年12月に320台
のiPadを追加導入して、既に先行導入し
ていた180台と合わせて500台体制とな
りましたが、ほぼ同時期にこの新たな電
子稟議システムも一部の端末に導入する
ことができました。

iPadからのリモートアクセス実現で、
活用範囲に広がりを見い出す。

ー CLOMO SecuredBrowserを採用し
て、iPad上から安心して電子稟議シ
ステムを利用できるようになったこ
とで、ビジネス上どのようなメリッ
トが得られましたか。

小松さま：iPadを使って外出先から決裁
処理ができるようになりましたから、決裁者
が海外出張や長期休暇でオフィスを不在
にしている、決裁待ちでビジネスが滞る
ようなことがなくなりました。これによつて、
経営スピードは確実に上がっていますね。
実際にユーザーからも、「とても助かって
いる」という声が上がってきています。
また今回、iPadから社内のWebシステム
にセキュアにアクセスできる仕組みが整っ
たことは、今後iPadの活用範囲を広げて

いく上でも、可能性が大きく広がったと感
じています。現在、iPadから社内の基
幹系システムへのアクセスが実現できな
いか検討しているところなのですが、
CLOMO SecuredBrowserを使った同じ
仕組みが応用できるかもしれません。こ
れら全てが整うと同時に、メリットも数値
化していけると思ってます。このように、
今後のモバイル活用の展開を考える上で
も、今回のCLOMO SecuredBrowserの
採用はとても大きかったと思います。

ー 今後CLOMOへの期待をお聞かせく
ださい。

小松さま：実は現在、社内で利用してい
る携帯電話をスマートフォンに切り替える
計画を進めているのですが、その際にも
CLOMO SecuredBrowserをはじめとす
るアイキューブドシステムズ製品が役立つ
のではないかと、大いに期待しています。

山中さま：現在モバイルの世界では、
iOSやAndroid、Windows Phoneなど、
さまざまなプラットフォームが混在してい
るので、われわれユーザー企業側として
はモバイル技術をビジネスに取り入れる際
に、マルチプラットフォーム対応が必ず問
題になります。そこで、アイキューブドシ
ステムズのようなベンダーが、プラットフ
ォーム間の違いを吸収できる仕組みを提供
してくれると、ユーザー側としてはとても
ありがたいですね。

既にCLOMO SECURED APPsは、iOS
のほかにもAndroidに対応していますが、
それ以外にもWindows PhoneやTizen、
Firefox OSなどにも対応してもらえると、
ユーザー側としてはデバイス選択の幅が大
きく広がると思います。アイキューブドシ
ステムズさんには今後、ぜひそうした役割
を期待したいですね。

その他導入事例はこちら ▶ <http://www.i3-systems.com/case.html>

お問い合わせ先



CLOMO 全製品 30 日間無料トライアル実施中

<http://www.i3-systems.com>